

徒然草『九月二十日のころ』 定期テスト対策問題 | 現代語訳・文法・内容の頻出設問と解答

組 番 氏名

／100点

本文

九月二十日のころ、ある人に誘はれたてまつりて〔①〕、明くる〔②〕まで月見ありくこと侍りし〔③〕に、思し出づる〔④〕所ありて、案内せさせて入り給ひぬ〔⑤〕。荒れたる庭の露しげきに、わざとならぬ〔⑥〕匂ひ、しめやかにうち薫りて、忍びたるけはひ、いとものあはれなり〔⑦〕。

よきほどにて出で給ひぬれど、なほ事ざまの優に〔⑧〕覚えて、物のかくれよりしばし見みたるに、妻戸をいまして押し開けて、月見るけしきなり。やがて〔⑨〕かけこもらましかば、口惜しからまし〔⑩〕。跡まで見人ありとは、いかでか知らん〔⑪〕。かやうのこと〔⑫〕は、ただ朝夕の心づかひ〔⑬〕によるべし。

その人、ほどなく失せにけり〔⑭〕と聞き侍りし。

設問

- 傍線部①「誘はれたてまつりて」の「れ」について、助動詞の基本形・文法的意味・活用形を答えよ。
- 傍線部①「たてまつり」の敬語の種類（尊敬・謙譲・丁寧）と、本動詞・補助動詞の別を答えよ。
- 傍線部①「たてまつり」は、誰から誰への敬意を表すか。
- 傍線部①「誘はれたてまつりて」を現代語訳せよ。
- 傍線部②「明くる」について、動詞の基本形・活用の種類・活用形を答えよ。
- 傍線部③「侍りし」の「侍り」について、敬語の種類と本動詞・補助動詞の別、誰への敬意かを答えよ。
- 傍線部③「侍りし」の「し」の基本形・文法的意味・活用形を答えよ。
- 傍線部④「思し出づる」は、ある語の尊敬語である。敬意を含まない普通の語に直せ。また、誰に対する敬意か。
- 傍線部⑤「入り給ひぬ」の「ぬ」の基本形・文法的意味・活用形を答えよ。また、打消の助動詞「ず」の連体形「ぬ」ではないと判断できる根拠を簡潔に述べよ。
- 傍線部⑥「わざとならぬ匂ひ」を現代語訳せよ。
- 作者が傍線部⑥のような香りに心を引かれるのはなぜか、説明せよ。
- 傍線部⑦「ものあはれなり」を現代語訳せよ。
- 傍線部⑧「優に」の基本形「優なり」の意味を答えよ。
- 「物のかくれよりしばし見みたる」の動作主は誰か。
- 「妻戸をいまして押し開けて、月見る」の動作主は誰か。

16. 傍線部⑨「やがて」の本文中での意味を答えよ。現代語の「やがて」との違いがわかるように答えること。
17. 傍線部⑩「かけこもらましかば、口惜しからまし」に用いられている助動詞「まし」の用法の名称と、「ましかば～まし」の形が表す意味の型を答えよ。
18. 傍線部⑩を現代語訳せよ。
19. 傍線部⑪「いかでか知らん」について、「か」の文法的働きと、結びの語・その活用形を指摘したうえで、現代語訳せよ。
20. 傍線部⑫「かやうのこと」とは、どのようなことを指すか。本文に即して説明せよ。
21. 傍線部⑬「朝夕の心づかひによるべし」の「べし」の文法的意味を答えよ。
22. この家のあるじのありようは、作者にとって「そうあってほしい」と望まれる理想的なものであった。「そうありたい・理想的だ」の意味を表す古語として最も適当なものを次から選べ。
- ア あさまし イ あらまほし ウ うしろめたし エ つれづれなり
23. 傍線部⑭「失せにけり」の「に」「けり」をそれぞれ文法的に説明せよ。また、「失す」のここでの意味を答えよ。
24. 最後の一文「その人、ほどなく失せにけりと聞き侍りし。」が文章全体にもたらす効果を、「余情」という語を用いて説明せよ。
25. 【文学史】この作品の作者名・成立した時代・文学のジャンルを答えよ。また、この作品とともに「古典三大随筆」と呼ばれる残り二つの作品名と作者名を答えよ。